



長寿を日本の力に

暑い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしですか。くれぐれもお身体をお大事になさって下さい。

さて、政治のほうは、元気が出ない話題が多いです。解散時期を巡る与野党入り乱れての攻防。もう、いい加減にしてくれ、というのが、率直な感想ではないでしょうか。政治家は「政局」をやっているれば、後は官僚がどうにかしてくれる。そんな時代は、もう終わったはずです。**未だに選挙・政局優先の政治家には政党を問わず退場して頂く。そして、我が国の政治を速やかに「政局本位」から「政策本位」に切り替えていかなければなりません。**

今思い返してみると、あの3年前の政権交代の熱気は何だったのでしょうか？政権交代すれば、日本の問題が全て解決できる。こんなバラ色の約束を掲げた民主党でしたが、蓋を開けてみれば、マニフェストは実現できず、一体改革も決められず、党内の権力闘争

自民党衆議院埼玉県 第一選挙区支部長

(岩槻区・浦和区・緑区・見沼区)

村井ひできです。本号では、「日本を元気にするプロジェクト① 長寿を日本の力に」をお伝えいたします。

だけが激化。結局、この3年間の成果は、バラマキ予算の拡大と、将来世代への膨大な借金だけでした。

村井ひできは、我々の所得を拡大し、老後の安心を確保し、莫大な財政赤字を解決するためには、政府がバラマキを行うのではなく、まず日本経済を元気にすることが大事だと考えます。

「経済活性化なくして、国民生活の安心も財政再建もなし。」今、政治に問われていることは、誰が日本を元気に出来るか、です。

村井ひできは、日本の強みを見つけて、それをさらに伸ばしていくことで、日本経済を立て直します。題して、「日本を元気にするプロジェクト！」。

第1回の今回は、少子高齢化を日本の強みに変える秘策を説明します。**根拠なきバラ色の未来を語ることも、将来に過度に悲観的になるのも、もうやめにしましょう。**

活動報告～地元の皆様と共に～

(左から)◆浦和まつりにて◆村井ひできと語る会in中野田
◆三室地区後援会発足式◆旧友たちとフットサル



村井ひできが日本の明日を語る!!

開催日 平成24年 9月15日(土)

時間 開場 18:30 開演 19:00

会場 埼玉会館 大ホール 【入場無料】

応援弁士 林芳正 元防衛大臣

ご来場お待ちしております

『村井ひできミニプロフィール』

昭和55年さいたま市生まれ。浦和市立別所小学校、私立海城中学・高等学校、東京大学卒業。平成15年財務省入省。米ハーバード大学大学院修士・ケネディ行政大学院客員研究員を経て、主税局課長補佐、参事官補佐。平成23年9月財務省退官。一般公募を経て、10月より現職。

長寿こそ、日本の最大の強み

最近、少子高齢化は、その問題点ばかりが議論されています。働き手が減る、高齢世代が増えて社会保障の負担が重くなる、人口減少で地域も疲弊する。デフレの原因すら、少子高齢化だとする意見もあります。

しかし、長寿化は、そもそも人類共通の夢であり、我が国が世界に誇る最大の強みではないでしょうか。

エジプトのファラオも、秦の始皇帝も、不老長寿を追い求め、巨額のお金を投じました。現代の金持ち、例えばアメリカの起業家、中東の王族、中国の大富豪も、みんな長生きをするために莫大な投資を行っています。

そして、今、世界の中で、長寿化の夢に一番近づいているのが日本なのです。しかも、1億人という大規模な社会で、長寿化を実現しました。

長寿化を支える様々な仕組み。我が国にとって当たり前のもので、世界中の人が買いたいと思う魅力的な商品です。また、こうした仕組みは、液晶テレビなどのように設計図さえあれば真似できるものではありません。

いくら韓国や中国が成長しても、日本の長寿社会を全部真似ることはできません。

世界には、平均寿命が50歳の社会もたくさんあります。また、少しでも長生きするために、いくらでもお金を出したい富裕層もたくさんいます。

「長寿」を日本のブランドに、様々な仕組みを世界に発信し、輸出していく。**長寿こそ、我が国が世界で戦うためのキラーコンテンツなのです。**

高い評価	WHO(世界保健機関)			OECD (経済協力 開発機構)	総医療費と GDPの比	低い医療費
	健康達成					
	健康 健康寿命	平等性	健康達成度 の総合評価			
日本	1位	3位	1位	18位		
オーストラリア	2	17	12	7		
フランス	3	12	6	5		
イタリア	6	14	11	14		
カナダ	12	18	7	6		
英国	14	2	9	21		
ドイツ	22	20	14	3		
米国	24	32	15	1		

長寿社会を、日本の輸出商品に

長寿ブランドの最大の商品は、日本型の食生活です。既に、「寿司」は世界に通用する食品になりました。

しかし、もっと身近な日本食こそ、「長寿化」の秘訣のはずです。ご飯、お味噌汁、野菜主体のおかず。こうした日本の食事を、いわば「定食」スタイルで世界に発信し、健康的な食生活として定着させていく。

もしこれが成功すれば、日本のコメ、味噌や醤油などの調味料、さらにはお椀やお箸などの食器類ですら、世界中に輸出できる主力産業になるはずですよ。

もちろん、食生活以外にも日本ブランドはたくさんあります。例えば、我が国に無数にある温泉。これを利用して、外国人向けに「日本長寿ツアー」を企画する。温泉に入り、健康的な日本食を食べ、日本の自然を体感してもらう。

日本人にとって当たり前の旅行スタイルも、外国人にとっては非常に魅力的です。実際、アメリカでも、日本スタイルの温泉リゾートが大人気。日本の温泉に外国人の観光客が増えれば、地域経済も息を吹き返すはずですよ。

(参考)なお、国際観光収入(外国人観光客の消費需要)について、現在我が国はGDP比0.3%(1.4兆円)だが、これが世界平均の1.5%まで伸びれば、それだけで我が国のGDPは1%押し上げられます。

さらに、国民皆保険や、勤勉な医療関係者に支えられた我が国の医療制度も、立派な「日本ブランド」です。

既に、日本の病院の中には、カンボジアや中国に進

出して成功をおさめたところが出ています。きめ細かなサービス、効率的な運営体制、高度な医療技術。日本人にとって当たり前のサービスも、世界には例を見ない仕組みです。

医療機関が海外に進出すれば、日本の優れた医薬品、医療機器、さらには介護など関連サービスも進出できるようになります。まさに、医療システムの「パッケージ輸出」です。

食生活、温泉、医療。こうした身近な商品・サービスを「長寿ブランド」として位置づけ、官民をあげて世界に発信し、輸出していく。当たり前のものが、世界に冠たる基幹産業になる。そしてまた、我が国のお隣、東アジア地域では、健康に興味を持ち始めた中間層が10億人規模で生まれています。我々は今、**莫大な埋蔵量を持つ油田**を目の前にしているようなものです。

今こそ発想を転換して、長寿を日本の強みと捉え直す。また、このチャンスをしっかりと活かせるように、環境整備を行う。そして、富をしっかりと日本に落として、豊かでゆとりある生活を実現する。これが、これからの政治家に課された役割だと思います。

長寿を支えるソフトウェア



<村井ひでき事務所連絡先>

〒330-0063 浦和区高砂1-10-18-4F TEL:048-825-0085 FAX:048-826-5304 E-mail:info@muraihideki.com